

第55回 新潟県合唱祭（6月22日 文化会館）  
市内で活動する皆さんが合同合唱団雪椿を結成して参加しました。

主な内容

- 小池市長の市政報告  
・下条川堤防のかさ上げについて… 23
- 第39回市民大学講座…………… 45
- 歯っぴいスマイル加茂・歯の健康… 67
- カメラスケッチ…………… 89
- 加茂の風土記…………… 10

加茂病院は加茂市の宝 加茂病院をもり立てましょう  
「美人の湯」も加茂市の宝 美人の湯をよろしく願ひいたします

# 市政報告

加茂市長 小池清彦

下条川下流の土手のかさ上げの  
高さを一メートルとすることで、**県  
当局と合意いたしました。**

平成十六年七月十三日の七・一三水害の時、私は、市内をかけ回りましたが、加茂川と下条川の下流の堤防が、今にも破裂し、また、溢水しそうな状況であるのを見て、ただちに県当局に対し、加茂川と下条川の土手の補強とかさ上げをされるよう要望いたしました。

県当局は、検討させてくれとのことでしたが、しばらくして、まず、加茂川の土手のかさ上げを

することを計画の中に入れ、JR鉄橋から下流の土手のかさ上げと河道即ち水が流れている部分の掘削に着手されました。

しかし、下条川については、県当局には、なかなか計画の中に入れてもらえませんでした。やがて計画の中に入れ、JR鉄橋から一つ上流の新川一号橋から下流の河道掘削と土手のかさ上げを行うこととされました。

しかし、県当局は、信濃川の計画高水位から逆算すると、堤防をかさ上げする高さは、三十センチでよいといって譲りませんでした。

これに対して私は、「下条川は、急激に水が出る川であり、さらに大雨のため、下条川ダムから放流しなければならなくなると、急に水かさが増

すので、三十センチでは全くだめです。」と主張し続けました。

ところが平成二十三年の七・二九豪雨では、下条川下流で、水が土手下十三センチのところまで達しました。

また、同じ平成二十三年の三月十一日の東日本大震災の津波では、「想定外」の事態となりました。そこで私は、「もはや想定外は許されない。土手のかさ上げは、三メートル積んでいただきたい。」と主張し、県当局と私との間で綱引きが続きました。

県当局は、「五〜六十センチではどうか」ともいつて来られましたが、私は、同意いたさず三メートルを主張し続けました。

その後さらに折衝を続けた結果、去る三月末に、県の三条地域振興局の丸山朝夫地域整備部長と私の間でかさ上げ高は、平均一メートルとするこ

とで合意いたしました。

一メートルというのは、加茂川の土手のかさ上げの平均の高さです。

丸山地域整備部長は、県における河川関係の実力者であられ、大変な御尽力をされた結果、合意に達することができたところであります。

丸山地域整備部長さんに心から感謝申し上げます。

なお、丸山部長さんは、去る四月一日付で新潟地域振興局の地域整備部長に栄転され、下条川下流の河道掘削と一メートルの土手のかさ上げの実施は、後任の大野昇地域整備部長さんの手に委ねられることになりました。

現在、県当局は、下条川上流の拡幅工事と、下流の土手のかさ上げ・河道掘削工事に着手しておられるところであります。



# 第39回 市民大学講座



身近な話題や  
ニュース用語の  
最新知識を満載

## 第1講 最近の日本経済について思うこと 新潟経営大学准教授 吉田一郎さん



地元経済のニュースでは、新潟市が農業特区に指定されました。このことで耕作放棄地を集積し、農地を集約しやすくなります。そして就農という雇用機会をつくり、収穫量を増やすことで販路を確保し、安定的な収入が期待できます。講座では「新規求人倍率」「有効求人倍率」「完全失業率」など経済ニュースで使われる用語が、どのような状況を示すものなのかを説明していただきました。

市民大学講座は、昭和五十一年に新潟大学公開講座から始まり、第七回から自主運営の市民大学講座として、今年三十九回を数えるまでになりました。毎回、各界から講師をお招きし、約二時間の短い中で、基礎から最新情報を教えていただいています。今年度、八講座のうち六名の先生が新潟経営大学や加茂・田上地域に係わる方々です。ここでは、六月に開催された講座をお伝えします。



第2講・第4講では、手話通訳を配して開催しました。

**第3講 緑満社会と生きがいつくり  
～コミュ活のすすめ～**  
新潟経営大学教授 中島 純さん



コミュ活（中島先生のオリジナル造語）とは「地域コミュニティに、自由意思でかかわることで、仕事・家庭外の生活を充実させ、他者との関係を良好に築きながら、生きがいを追求する行動」と定義。コンビニやスーパーではマニュアル接客なので、こちらにも表情・感情を表わさなくなります。まずは、一言のあいさつを続けることから始め、コミュ活のめんどろくささ、わずらわしさのハードルを低くすることからはじめてはいかがでしょうか。

**第2講 身近な植物とつき合う**  
新潟県立植物園専門相談員・  
加茂生物同好会 高橋 務さん



「春の妖精」ということは西洋的な表現で、日本では「春の使い」としてカタクリや雪割草をしますことが多いです。植物図鑑では花や葉の容姿、学名が載っていますが、枯れる時期や季節ごとの変化の説明がないのが一般的。雑誌で紹介される場合、図鑑から引用されることが多いから、最近の研究成果が反映されないことが多いです。加茂山公園の植物は種類も豊富なので、一年をとおして観察してみてもいいでしょうか。

**第5講 薬と健康**  
～そして身近なかかりつけ薬局～  
新潟県薬剤師会事務局次長 諏訪美智子さん



薬の使い方は、医師の指示と処方によって服用することが大切です。薬は、服用・代謝・体外に排出しやすいような形と成分で作られています。高齢になり、からだの代謝速度がゆっくりになったら、それに合わせて薬の処方も調整したほうがいいです。健康食品は本当に必要かどうかを考えてから。体験談や成分表示に惑わされないように気をつけてください。大切なのは、健全な食生活、適度な運動、十分な休養・睡眠です。

**第4講 新潟県観光あれこれ**  
新潟県観光協会副会長 野澤幸司さん



日本の国内観光の国際化は平成十五年から。その中でも六五％は東南アジアからのお客様です。中越地震や中越沖地震のときに落ち込んだ観光客数は、お客様の要望に応えることで来客数を取り戻しています。現在JR六社で行われているDESTINEーション・キャンペーンは、地域観光のレベルアップにつながっています。これは、地域の人たちと観光業者が一体となって料理や散策コースなど提案し、お客様の好評を得ているからです。



# 歯っぴいスマイル加茂

6月8日  
市役所市民ロビーで

歯と口の健康週間にちなみ、歯科医師会、歯科衛生士、保健推進員OB会の皆さんから協力いただき、「歯っぴいスマイル加茂」を開催しました。親子や家族で来られた皆さんの歯の健診やフッ素塗布コーナーとともに、歯と食べ物のかかわりをテーマにステーションを行いました。今年はカモレンジャーと、新潟で活躍するローカルアイドルのエンジェルジュネレーションが登場し、歯と口の健康はとても大切なことだとアクションと歌でPR。午前中だけの開催でしたが約三百人近くの方からおいでいただきました。



## 上手にかかろう歯医者さん

〜かかりつけの歯医者さんをつくらう〜

歯の健康を守るために、いつでも気軽に相談できて頼れる歯医者さんを見つけておくのと安心。そのためにも定期的な歯科健診を受けるなどして、かかりつけの歯医者さんをつくるのが大切。知っている歯医者さんがいれば、困ったときに質問しやすいですね。

### ■まず電話で予約を

痛くてとりあえず歯医者に行ったらさんざん待たされた、後日ということになった。これもよくあることです。歯科医院はその特殊性から予約制のところが多いので、あなたが行かれた時間にはすでに予約の患者さんが入っているかもしれません。前もって空いている時間を確認していけば、あなたのための時間を作ることができますので、効率よく受診できます。

### ■初診のときと月初めは

#### 必ず保険証を

保険証を持参しないと保険治療はできません。自費治療となってしまう。無用な出費をしないために



も保険証はお忘れなく。健康手帳をお持ちの方はそちらもご持参ください。なお、保険証が変わったら、必ずご持参ください。

### ■歯だけではなく、からだの具合が悪いところも教えてください

歯だけが悪くて、あとは健康。ということはありません。具合が悪いところを抱えている患者さんは少なくありません。高血圧・糖尿病・心疾患やアレルギーなど、現在の体の状態や、そのために飲んでいる薬が歯科治療に関係することはおおいにあります。

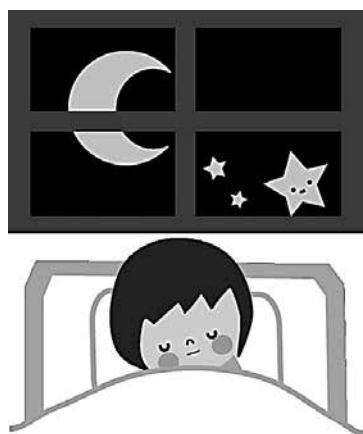
また以前かかった病気が問題になることもあります。診断を確実にするために、安全で安心な治療を受けるためにも、最初に歯のこととい



## 歯の健康Q&A②

### 「夜中に歯ぎしりをします」

幼児期に無意識で行っている睡眠時の歯ぎしりの原因としては、大人と違いあごの関節が完成していないこの年齢では、咬み合わせの不調からくる歯ぎしりは起こりづらく、むしろ日常生活の環境的、精神的因子が原因となることが多いようです。たとえば新しい家族が増えた、兄弟が増えた、幼稚園での生活がストレスとなっているなど、生活上の環境の変化や新しい社会環境が原因となっているこ



とがあります。このような場合は、環境に慣れるまで様子をうかがうこととなりますが、極端に歯がすり減るなどがあればナイトガードといった歯がすり減るのを防ぐ装置を装着することがあります。

また最近の報告では就寝前に牛乳を飲むなどの飲食の習慣から、睡眠時に胃食道逆流を起こし、唾液を飲み込むことによって酸を中和しているのですが、その飲み込みの時に歯ぎしりが起きるといわれています。この場合は就寝前の飲食を中止すると、すぐに歯ぎしりは治まります。

(加茂市歯科医師会)

つしよに全身のことや服用しているお薬のことも教えてください。

### ■治療の前には歯磨きを

入れ歯も洗っておきましょう  
マナーです。歯に汚れがついてい

ると正確な診断・治療ができません。日ごろの口腔衛生管理が疑われてしまいます。その前に食べたものがわかってしまいますよ。

### ■痛みや気になるところを

まとめておきましょう

どこが、いつから、どんなときに、どのように気になるのか確認しておきましょう。たとえば「一番奥の歯が一週間前から水を飲んだ時にしみる」など。

### ■気になるところが何か所かある

「ここが一番気になるが、ほかにもこちらが気になる」と申し出てく



ださい。今後の治療方針が変わることがあります。全体の治療日数が短縮されます。ただし、全ての気になるところを同時に治療開始するとは限りません。

### ■不安なことや、わからないことは

遠慮なく聞きましょう

緊張したり、遠慮したり、はずかしがりしたりして聞きたいことが聞けずにはいませんか？忙しそうだからとか、こんなことを聞いたらおかしいのでは？などと考えずに納得のいくまでしっかりと聞きましょう。忘れそうなときはメモをとってもよいでしょう。

### ■おしまい：歯の治療がこわい方へ

歯の治療なんてこわくてイヤなのが当たり前です。でも、治療の不安や痛みを少しでも軽くするために、歯科医師は日夜努力しています。最近では、いろいろな方法も開発されて、いちじるしく不安の強い方にも十分対処が可能になりつつあります。どうぞ、チョットだけの勇気と保険証を持って、歯科医院を訪れてください。

(加茂市歯科医師会)



## カメラ スケッチ



長瀬神社春季祭礼（6月15日）

上条まつり、団子まつりとも呼ばれる伝統のお祭り。夏が近づく日差しの中で御神幸が行われました。沿道では大勢の人たちが、上条まつりを印象付ける右大臣、左大臣、全国的にも珍しい六角形の御神輿と元気な子どもたちのお供を見守りました。



第55回新潟県合唱祭（6月22日）

今年加茂市で開催された新潟県合唱祭には、三十八団体・延べ九百人余りの方々が出演しました。今回、加茂市での開催に合わせ、市内で活動する七つの団体が一つになって九十名の「合唱団雪椿」をつくり合同合唱しました。この合同合唱団は押見先生の指導で「早春」と「花は咲く」の二曲を披露しました。



第15回全国松坂・小唄日本一大会（6月8日）

例年どおり、民謡四天王の一人藤堂輝明さんをお迎えして、県内はもとより、福島県、長野県からも多数の参加があったこの大会、コンクール部門には八部門に五十一名が出場しました。全国松坂大賞部門では加茂松坂、魚沼松坂、頸城松坂、新津松坂、会津松坂などが優勝トロフィーをかけて歌われました。また、アトラクションコーナーでは全国各地の民謡が披露されました。



加茂川一斉清掃（6月8日）

夏を前に加茂川河川敷をきれいにする加茂川一斉清掃が行われました。午前六時の合図の花火で駒岡橋から石川公園までの間、約二千人の市民の皆さんからご協力をいただきました。集められた可燃ごみ約八トン、不燃ごみが約三百kgで、可燃ごみのほとんどは雑草類でした。



## カメラ スケッチ

### コムソモリスク市派遣中学生代表団事前研修

今年、加茂市と姉妹都市交流をしているロシアのコムソモリスク・ナ・アムレ市へ市内の中学生が訪問することになっています。五月までに十二名の中学生が代表団に選ばれ、出発までの間の事前研修で、ロシア語でのあいさつや、習慣、マナーなどを教わります。また、ロシアの子どもたちの前で披露する歌や加茂松坂の練習もあります。中学生たちは「昨年来日したロシアの代表団のように交流したい」と、講師と今回の通訳を務めるマリナさんのアドバイスをしっかりと聞いていました。



### 第十七回加茂市長杯市民親善ゲートボール大会

市内と田上町から十チームが参加して開催されました。大会は二つのリーグに分かれ、各チーム四試合の結果から総合順位を決めました。結果は次のとおりです。

期日 六月二十九日 会場 すぱーく加茂  
優勝 加茂宝柳会②七谷A③田上あじさい④和泉会⑤七谷D⑥ゆきつばき⑦八幡⑧秋房⑨田上保明⑩田上陽寿会



### 冬鳥越スキーガーデン・バラ園

今年のバラ園の花の見ごろは六月中旬からという予想でした。しかし、五月下旬から気温の高い日が続き、六月初旬からバラの大輪が開き始め、園内の百五十種のバラが大勢の人を楽しませてくれました。

# 近代加茂市の相貌(一)

## 慣習から規則へ

加茂などの在郷町に常設店と別に生まれた交易の場である「市(いち)」は、多くが五日間隔で月に六回開かれたことから『六歳市(ろくさいいち)』という。農家が農産物を持ち込み、その売上金で、町の店などから衣料・塩漬魚などの日用品類を買って帰ったので、町の賑わいと商業発展に寄与した。

加茂市(いち)は、十八世紀後期の寛政年間には、現在と同じように月六回、四と九の日に開かれていたことが知られている。市の多くが自然発生的に発生したこと

もあって、成文化された規則などは残っておらず、運営は各地域の慣行に委ねられていたようだ。

明治十七年(一八八四)十一月、加茂町人民総代本間雄平、浅野省三郎、石附石次郎、田下五郎七、市川君五郎(市場総代役も兼任)の五人と、市場総代古川伴吉郎が連名で、加茂市について七カ条に書き上げ、加茂町戸長古川保吉に

その承認を願いだした。骨子は、

- ・市は町の表通りに毎月六回開き、街路の中央二間は往來の妨げにならないよう空けておく。
- ・四日と十九日は上市で、上町の北側に市が立つ。
- ・九日と二十四日は中市で、仲町の南側に市が立つ。
- ・十四日と二十九日は下市で、本町の北側に市が立つ。
- ・市場の掃除は、その区域内居住者の負担とする。

この年、地方行政の仕組みを近代の役場制に近づける連合戸長役場制が発足したのを機に、加茂町住民から選挙で選ばれた総代らが「将来加茂町住民ノ幸福安寧ヲ維持スル」ことをめざし、加茂市をより公的なものにししようと図ったものといえよう。古川戸長の承認を得た規約書原本は市場総代の古川伴吉郎が保存し、他の五人がその謄本を保存することにした。新潟県の「市場規則」制定に四年先立つ、早期の成文化であった。

(溝口敏磨)

# 加茂の風土記

昭和三十年年代の本町大通り。道路右側に露店の並ぶ様子がある。



あいちとっ

社会福祉費寄付金

▼全国松坂・小唄日本一大会から九千二百円

加茂市へ

▼有限会社家具のまるやま(三条市)から 車イス一台

### 人口のうごき

6月1日現在  
 世帯 10,290 (-1)  
 人口 29,407 (-47)  
 男 14,210 (-19)  
 女 15,197 (-28)  
 ( )内は前月比  
 (5月異動分)  
 出生 14 (男6女8)  
 死亡 33 (男14女19)  
 転出 48 転入 20